The Royal Photographic Society

Patron: Her Majesty The Queen.　Incorporated by Royal Charter

NEWS LETTER

第 **16** 号　2009/09/28

発行所　英国王立写真協会・日本支部
〒 107-0051
東京都港区元赤坂 1-7-10
元赤坂ビル 9F
Tel 03-5413-7829
Fax 03-5413-7410
E-mail：yoshi-rpsj@hotmail.co.jp
発行人　豊田芳州　　編集人　川村賢一

http://www.rps-japan.org

新理事長ご挨拶

写真の最先端を進みたい

豊田芳州

私は、このたび、大野隆司氏から日本支部の理事長を引き継ぎました。大野前理事長の就任にあたり、私は理事として協力するという約束をしましたが、ほとんどお役に立てませんでした。私が後を継ぐ資格があるのか、はなはだ疑問です。しかし、この時期、微力を尽くすしかないと考え、就任を受諾しました。

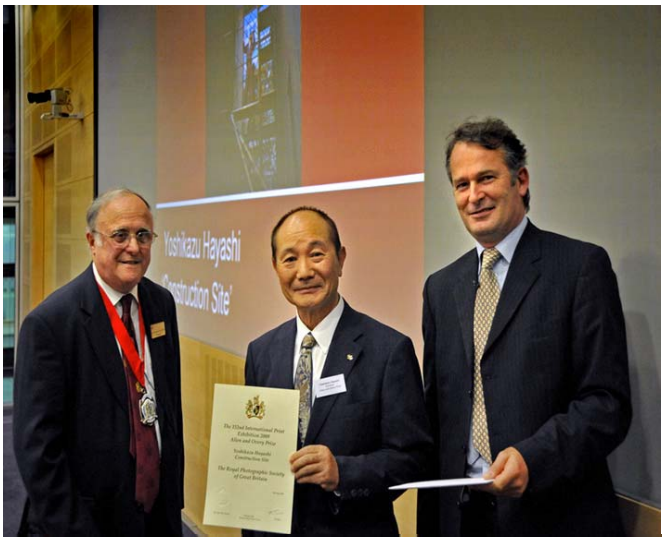
日本支部には、会員数、活動、財務といった課題があり、相互に関係があります。私は、まず活動に重点を置きたいと考えます。活動がユニークで充実してくれば、会員数も増えてくると思います。会員が増えれば、英知も結集され活動もいっそう活発になるでしょう。

ユニークな活動とはどのようなものでしょうか。まず日本支部写真展で、今までの殻を破った画期的な写真展を開催する必要があります。プロの最先端は別として、日本の写真界は停滞していると思います。被写体とテクニックはあいかわらず変わりばえせず、写真の評価体系はマンネリ化しています。これに新風を吹き込むことは可能であると確信します。次の写真展「New Horizon」では、大いにチャレンジしたいと思います。本部からの機関紙「RPS JOURNAL」に掲載された写真は、私たちより先を進んでいるのではないでしょうか。大いに参考にしたいと思います。

最近、林会員と上田会員が2009年国際投影イメージ写真展に入選しました。二人同時の受賞は、初めてだと記憶しております。日本支部活性化の一助になるでしょう。

年内に研修会（リレートークの会）を２回開催します。そこでは、今までにない写真観やトークが披露されるはずです。私は「時間を撮る」というテーマで撮影思考を提議します。川村会員には、建築家の視点から「写真とパースペクティブ」という話をしていただく予定です。どちらも、一写真家の頭脳の中で生まれた思考と概念です。私たちは、このようなお金のかからない活動を推進しなければならないでしょう。

母体である英国のThe Royal Photographic Society（ＲＰＳ）は世界的な権威と知名度の高い写真団体です。Membership card(会員証)は世界中の多くの地域で通用するものです。その一員として少しでも写真界に貢献できるような活動をしたいと思います。



写真：表彰式　左：英国王立写真協会会長
右：アレン＆オバリー社会長

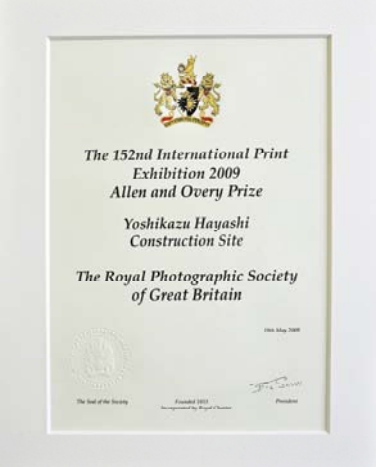
第１５２回 国際プリント写真展受賞式

英国王立写真協会表彰式に参加して

林　喜一

５月１９日夜、ロンドンのビジネス街にあるアレン＆オバリー社に於いて、第 152 回英国王立写真協会の写真展と表彰式が行われました。

今年の課題になった「新たな展望」に、私の応募作品「建設現場」が、スポンサー特別賞に選ばれ、初めての渡英に不安を感じながら出席しました。



近代的な写真展会場には、イギリスを中心に世界各国から 200 名以上の参加があり、私は 2 番目に紹介されました。授賞式では先ず審査委員長から、入賞までに至った経緯と作品の講評があり、王立写真協会会長から表彰状を、オバリー社

会長からは賞金の授与がありました。
　受賞者の中には、オランダやインドの人も参加していて、名刺等を交換しながら親交を深めて来ました。
　会場は若いプロ作家も沢山出席しており、日本との違いを少し感じます。入賞作品は特設展示会場に飾られ、それと同じ作品がパーティ会場にも展示されていました。終了後は一年掛けてイギリス国内を巡回展として移動します。
　パーティでは言葉の不自由はあるものの、写真の話しになるとすぐに親しくなり、帰り際にメールの交換を約束して、慌ただしい日程を終えて帰国しました。
　今回の受賞を励みにして今後の作品づくりに生かして行きたいと考えています。

（写真上から）
　　写真展会場、表彰式、パーティ会場、受賞者記念撮影

総会風景

ＲＰＳ日本支部総会および懇親会開催

　７月５日ＲＰＳＪ総会が開催され、滞りなく終了した。
　今回は例年以上に参加者が少なく、少々残念ではあったが、参加者はおおいに親睦を深めることができた。

　今回はとくに、ＲＰＳ国際プリント展のスポンサーテーマ部門賞を受賞された林会員より、英国での授賞式参加報告があり、イギリスでの写真のスライドショーとトークで、大変有意義な時間を過ごすことができたので、紹介したい。

英国での授賞式参加報告 Ⅱ

　報告は、表彰状の紹介からはじまり、ＲＰＳ会長、表彰式をやったオバリー社の建物（外観や中庭）と表彰式会場の紹介へと進んだ。
シティ（ロンドンの金融中心街）近くにある高層ビルのアレン＆オバリー社入口を入った１階の奥が写真展の会場となっていた。
　アレン＆オバリー社は、国際的な法律事務所だそうで、世界各地に 5,000 人のスタッフを抱え、東京の六本木ヒルズにも支社があるとのこと。
　毎年スポンサーとなっているが、収蔵写真だけでも、２０００点だと聞く。それらも自社のＰＲ活動などが目的ではなく、写真文化のパトロンとして買い上げているとのことで、懐の深さ、歴史の違いのようなものを感じる。
　会場入口には、林会員の入賞作品が飾られ、そこから奥が写真展の会場となっていた。
　会場でのパーティーは、ワインと簡単な食べ物で、皆さんワインを持ちながら好き勝手に、作品を見て歩いていく。
グランプリをとった方をはじめ、世界各地から多くの受賞者が集まっていたが、林会員も他の受賞者と記念撮影に納まった。
　表彰式の式典は、司会者なしで、いきなりＲＰＳ会長、審査委員長の挨拶となり、わずか２０分くらいで終わってしまい、日本との違いに驚いたそうだ。
　三宅会員によれば、ロンドン三越の開店パーティーにおいて当時の社長がやった１時間超のスピーチは、英国ではいまだに語り種だとか。
　会場の壁の巨大スクリーンには、入賞入選作品が次々に映し出され、ＲＰＳ会長、審査委員長、他審査員５名、事務局

林会員によるスライドショー

担当者などの紹介、アレン＆オバリー社の会長などとの記念撮影も紹介された。

「中には日本に住んでいたという人も現れ、また日本に行ったときにはよろしくと言われました。」

「日本を発つ前に、事務局長の三宅さんからいくつかの日本料理店を紹介して頂いていたので、訪ねると、奥さんが三宅さんの作品を見せてくれたり、別の店のママにもお会いできました。」

ロンドンのストリート風景や公園風景、三越のライオンの原型といわれるトラファルガー広場にある大きなライオン像の写真は、タクシーの窓から撮ったとのこと。

「世界遺産となっている国会議事堂や、鉄道の駅周辺でもスナップを撮りました。」

ちょうどバッキンガム宮殿の衛兵たちにも出会ったとかで、ロンドンらしい風情の写真でしたが、アフガンから帰国したばかりということで、生々しい現実も知らされた。

この後、オックスフォードの町の風景やオックスフォード大学の中を撮った写真が紹介された。

「ちょうどバラが綺麗に咲いていました。歴史があり、木々も風格がありました。大学内の教会、ステンドグラス、これが食堂で、ハリーポッターの映画にもでてきたそうです。」

大学の中に綺麗な川があって、ボートは有名ですが、ガイドさんがボートから川に落ちてしまうハプニングがあったとかで、落っこちて慌てている瞬間を捉えた写真も披露された。

「これはオックスフォードの駅ですが、画像処理してみました。今日お見せしたうち、４枚が画像処理したものです。」

卓越したデジタル画像処理技術については、ぜひまた機会を設けて講師をお願いしたい。

「コッツウォルズの町も訪ねました。ちょっと郊外に連れて行ってもらったのですが、フジの花をはじめ、とても花がたくさん咲いていて大変綺麗なところでした。思わぬところに花が咲いている石造りの建物があったりして、いい写真が撮れました。」

旅行中の天候は、一日のうちに雨あり晴れありで、とてもイギリスらしい感じだったということでしたが、全体にイギリスらしい柔らかい光と陰がとても印象的でした。

最後に帰りの列車の中からも撮った写真何枚かで、今回のスライドショーを終了した。

参加者の中からも、近いうちにぜひ英国に行ってみたくなったという声が多く聞かれ、話のつづきは後半の懇親会の方へ引き継がれた。　（文責：川村）

写真右：「大学へ」林 喜一

第８回ＲＰＳ日本支部写真展のお知らせ

日　時：２０１０年2月１１（木）～１６日（火）
　　１０：３０～１８：３０（日曜もオープン）
場　所：フォトエントランス（東京日比谷）
テーマ：「NEW HORIZON」

（出展要項は昨年に準じるが、詳細は後日お知らせ。）

それぞれの「The New Horizon」がある

豊田芳州

第８回写真展の課題テーマ「The New Horizon　新たな展望」をこなすにあたり、ガイダンスとアドバイスをしたいと思います。

いうまでもなく、Horizon とは、①地平(線)、水平(線)、地平(圏)という意味です。しかし、それ以外に②《思考・知識などの》視野、限界、範囲という意味があります。

ＲＰＳ本部が、2008 年の課題として「New　Horizon」を選んだ背景には②の意味を重視したことが考えられます。林会員の作品が入選したのは②の解釈がユニークだったからでしょう。

①は実体のある目に見えるものなので、撮影は易しいと言えます。いろいろな撮影地で水平線と地平線は被写体になります。しかし、機械的に撮影したのでは、課題をこなしたことにはならないでしょう。「水平線のかなたに何があるのか」「水平線までたどり着く道のりで何が起きているのか」など水平線に対する意味づけが必要です。

もうひとつの②は概念なので、実体はありません。これを被写体にするところに解釈の余地があり、おもしろいと思います。その一方、概念を被写体にする難しさもあります。私たちは、それぞれ自身の②「視野、限界、範囲」をもっているはずです。得意分野、専門知識、仕事、技術、趣味、スポーツ、日本国、体力、生活習慣など自身の周囲で②を見つけてください。独自の解釈ができれば、自然に「New」になると思います。

私は、「New　Horizon」は、グループ展としてたいへん良いテーマだと思います。どんな被写体や分野にも当てはまります。会員それぞれがユニークな解釈で取り組んでいただけたら幸いです。

2009 年
ＲＰＳ国際投影イメージ展
みごと２名入選！

毎回次点スコアで入選を逃していた上田会員ですが、今回デジタルネイチャー部門でついに入選しました。
ポイントも非常に高く入賞にかなり近かったと思われます。
さらに、入選常連となった林会員は、今回も１点入選しています。
ＲＰＳ本部の国際写真展は、冬の「プリント展」、夏の「投影イメージ展」の年２回で、今回は支部として計６名の参加でした。
多くのプロ作家をはじめ、世界中から約３０００点の応募があり、約１００数十枚が入選となる。
狭き門ですが、今後もこの活動を続けていきますので、ふるってご参加下さい。
また昨年同様、入選作品集が届き次第、イベントアトラクションなどで、勉強会もおこなう予定です。

■「オオヒシクイと白鳥の共演」
上田顕人

ヨシの群生する新潟市の福島潟は、国の天然記念物オオヒシクイの絶好のねぐらとなっている。
オオヒシクイは羽を広げると１６０センチにもなる大型の雁で、福島潟は日本一の飛来地だ。
夜明けと共にエサ場に向かって飛び立つオオヒシクイを狙っていると、同居するハクチョウたちと共演するかのように次々と飛び立って行った。

入選作品

Match of Swan and Wild goose（上田顕人）

Oarai Coast（林 喜一）

今後の支部活動

（現時点での予定です。詳細は後日。）

《２００９》

１０月１５日（木）リレートークの会。
19 ～ 21PM「時間を撮る」豊田芳州

１１月１９日（木）「築地」撮影会。

１２月１７日（木）リレートークの会。
19 ～ 21PM「写真とパース」川村賢一

《２０１０》

２月１１日～１６日　第８回写真展。

（編集後記）

今回も原稿集めに苦慮し、発行が遅れてご迷惑をおかけしました。皆さんの会報ですので、今後ともご協力の程、よろしくお願い致します。
前号で予告した、春の本土寺（アジサイ寺）撮影会は、その後の調べで、撮影の最盛期には、数百～数千人の人が押し寄せるということが分かり、断念しました。去年の秋も、紅葉の時期の土日は５千人も来たそうです。
この秋の親睦撮影会は、「築地」と決まり、１１月半ばを予定して、準備に入っています。
また、１０月には、会員によるリレートークの会が、いよいよスタートします。まず、手始めは、豊田理事長にお願いし、「時間を撮る」という興味深いテーマでお話し頂きます。その後、バトンは不肖私が受け継ぎ、１２月に「写真とパースペクティブ」について、遠近法という切り口で歴史的に考察していく予定です。
これからますますホットに、楽しくなっていきますので、皆様には積極的にご参加頂き、会を盛り上げていきたいですね。（川村）